

# 市10大ニュース

平成23年の美祢市の10大ニュースを振り返ってみましょう。

## 2011年5月

### 小郡萩道路の開通

2月に小郡萩道路の十文字ICから秋吉台ICが、5月に小郡萩道路の大田ICから絵堂ICが開通しました。

これにより、美祢東JCTから絵堂ICまでが開通し、山陰と山陽が結ばれ、市内の秋吉台・秋芳洞などの観光地へのアクセス向上に役立つだけでなく、東日本大震災では、高速道路の重要性が再認識され、災害時にはその役割も期待されます。



## 3月

### 美東・秋芳地域でMYTの自主制作番組放送開始

市内の情報二元化への第一歩として、3月1日正午から美

東地域、秋芳地域において美祢市有線テレビ(MYT)の自主制作番組が視聴可能となりました。視聴できる人は、ケーブルテレビ加入者で、放送チャンネルは、アナログ12チャンネルです。

## 4月

### 秋芳洞リニューアルPEN(日本初の洞内照明完全LED化)

秋芳洞「光景ハーモニー・水と大地の調和」、黒谷人工隧道「3億年のタイムトンネル」、美祢市のアンテナショップ「MINEまるごと館」が完成しました。

秋芳洞「光景ハーモニー・水と大地の調和」では、洞内の全照明を日本初となるLED(発光ダイオード)とし、環境に配慮しました。また、黒谷人工隧道「3億年



のタイムトンネル」では、黒谷人工隧道の壁面140mに地球誕生から現代にいたるまでのビジュアルアートを設置し、イメージ音楽と照明デザインによる演出がされました。さらに、アンテナショップ「MINEまるごと館」が秋芳洞商店街入口付近に開館し、観光情報発信や特産品販売を行います。市内産業の活性化を図ります。

## 9月

### 「美祢市の地域医療を支え育てる条例」制定

近年の深刻な医師不足による地域医療体制の危機に対処するため、昨年より美祢市地域医療協議会を設置し条例案を検討し、9月議会でも可決しました。同様の条例は県内で初めての制定となりました。また、市民にも地域医療について理解してもらうため12月にシンポジウムを開催しました。

### 名球会ベースボールフェスティバル開催

名球会ベースボールフェスティバルが開催されました。午前は、市民会館において、王貞治氏の講演会、名球会会員トークショーとチャリティー抽選会が、午後は、場所を市民球

場に移し、少年少女ベースボールクリニックが開催されました。



### 美祢線運転再開!!

平成22年7月の災害により不通となっていた美祢線の運転が再開されました。

美祢駅前での式典に先立ち、厚狭駅と長門市駅において、それぞれが趣向をこらしたイベントが開催されました。厚狭駅からは、SL山口号で使用されている客車を使用した臨時列車と長門市駅からも臨時列車が、「美祢線復旧記念」と記されたヘッドマークを付けそれぞれ運転されました。美祢駅前での式典には、関係者や市民の皆さんと鉄道ファン等約1,500人が集まり盛大に開催されました。式典会場横では、美祢駅前毎月第3土曜日に予定されてい

# 平成23年美祿

皆さん平成23年はどのような1年でしたか。  
美祿市内でも色々な出来事がありました。平成

## 10月

### 第66回国民体育大会 (おいでませ! 山口国 体)の開催

山口県で48年ぶりの国体が開催され、美祿市においては、10月2日、4日に軟式野球競技、10月9日に自転車競技(ロードレース)が開催されま

る軽トラ朝市も行われ大いに賑わいました。  
当日は、美祿線の沿線に多くの人々が集まり、走る列車に手を振ったり、横断幕を掲げたり、思い思いの趣向を凝らした応援をしていただきました。



した。また、国体の開催に先立って、スポーツの推進と国体開催機運を高めることを目的に9月11日にデモンストレーションとしてのスポーツ行事「ウォーク」も開催されました。

### 成功!! 企業誘致

大阪市に本社がある金属加工メーカー「トーフレ株」が、美祿工業団地に進出することが決まり、村田市長と中野社長による進出調印式が挙行されました。トーフレ株は、ステンレス製フレキシブルチューブを製造しその分野の主力メー

カーです。進出計画では、平成25年度に工場建設に着手し、平成26年度から創業を開始される予定です。創業開始時の従業員数は、70名程度で、最終的には、150名程度の雇用を予定し、トーフレ株のメイン工場となる予定です。平成30年度には、生産額が50億円となる計画で、市の活性化が期待されます。



### 長登銅山文化交流館愛 称決定「大仏ミュージアム」

長登銅山文化交流館の愛称を広く募集したところ、59点の応募がありました。審査を行った結果、「大仏ミュージアム」に決まりました。

今後は、長登銅山一帯を「大仏のふるさと」とし、当館をその中の交流拠点施設と位置づけることとなります。愛称の発表は10月30日に開催された第4回銅山まつりで、愛称の

採用者と応募者全員の中から抽選で2名に記念品が贈呈されました。

## 11月

### 台湾南投県と「友好交流の促進に関する確認書」に調印

「交流拠点都市」の創生を目的に交流人口の拡大の取り組みを進めるなかで、観光客のさらなる誘致活動は非常に重要です。特にアジア時代に対する外客誘致の更なる取り組み強化が必要であることから、日本との経済関係にも深い結びつきのある台湾を11月15日から18日に訪問しました。

訪問団は各種団体との交流による観光宣伝活動を行い、南投県との友好交流に関し、村田市長と李南投県長が、相互連携を深めることを積極的に進めることを確認した「友好交流の促進に関する確認書」の調印を行いました。

